

---

## デジタルパンク通信 第十五話

---

Q 笑顔でしょうか。殺気でしょうか。

A 殺気です。

テムズ河畔、テート・モダンという近代美術館にいます。大英博物館で原稿でも、と思っていたのですが、途中でイヤになったので、口直しにモダンアートを見に来ました。小雨のロンドンを歩いて来ました。

そりゃ確かにロゼッタ石にしろギリシャ文明にしろすばらしい所蔵品なのですが、なぜそんなものがここに集まっているのか、かつての大英帝国のえげつない財力と軍事力が展示してあるような気がしまして。過去の栄華は哀しい。

しかし街は華やいでいて、行き交う人は穏やかなたたずまいです。みなニコニコしています。イギリスは好景気が続いているようです。ゆっくりロンドンに行くのは20年ぶりです。これまで何度か訪れてはいましたが、会議なり用事なりで余裕がなく、今回ひさしぶりに独り歩きです。

20年前、授業料も免除されるほどの貧乏学生でした。まだ少年ナイフが結成される前ですが、音楽のことばかり考えていました。ニューウェーブ音楽の現場を見たくて、うまいこと言ってある奨学金を頂いて渡英し、1ヶ月ほどウロウロしました。

当時、ロンドンには英国病で殺気立っていました。失業者があふれ、パンクスがたむろしていました。魔法のマコちゃんのピンクのカバンを持っていると、それよこせと何度も追いかけられました。私は、そんな殺気から生まれてくる表現を体感したかったので、彼らの叫び声、道の騒音、街の雑音を、ひとつ残らず耳に残そうとしていました。

ロンドンも私もずいぶん大人くなりました。決してよいことではないでしょう。感覚が鈍っているわけですから。ロンドンのメシは相変わらずマズいままですが、それとて、以前のように、飛び上がるほどマジってものには出くわしません。私がアメリカ暮らしでマズいものに鍛えられただけなのかもしれません。

変わったと言えばモバイルです。ここでもケータイが多い。普及率67%という数字もあります。ポーダフォンの国ですしね。20年前、やっとオーディオがモバイルになるころでした。ピカデリーサーカスあたりでウォークマンのオレンジ色のヘッドフォンをしていると、聴かせると人が集まってきたことを思い出します。魔法のマコちゃんを聴かせてあげたものです。

デジタル分野でのイギリスの特徴はテレビですね。デジタルテレビは、衛星、地上波、ケーブルあわせて30%の世帯普及率です。爆発的な普及を見せています。高精細ではなく、多チャンネルと双方向に徹しているのも特徴的です。日本の5年ほど先を進んでいるように見えます。

日本と並ぶテレビ好きの国イギリスは、大衆にインターネットを普及させる手段として、テレビを選んだようです。階級社会のイギリスでは、国民ぜんたいにパソコンを普及させるというのは難しく、身近なテレビを活用しようということでしょう。このあたり、狡猾で戦略的なイギリスのスピリットがまだ生き続けているということかもしれません。